

令和 6 年度

運営に関する計画

R06.11.18 含中間評価



大阪市立難波元町小学校

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○ 令和4年度末の保護者アンケートで「学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定的な回答が95%であった。令和3年度の89%より6ポイント増加した。理由として、コロナ禍の中での教育活動も3年目を迎え、様々な工夫をしながら学習のみならず行事も実現できたことが考えられる。保護者へのアンケート結果にも「コロナ禍にあってもできるだけ行事を減らさない工夫が感じられる」といった声がよせられている。このような保護者へのアンケート結果に対して、児童へのアンケート結果は次の通りであった。

令和4年度末の児童アンケートで「学校は楽しいですか」の肯定的な回答が94%で、令和3年度が98%からすると4ポイント減少した。

コロナ禍の中で児童の安全・安心を担保して教育活動を推進していることを引き続き発信していく。

○ 「きまり・規則を守っている」と回答した児童は92%で令和3年度から2ポイント増加した。学校にあるいろいろなきまりを守ることが自分の命や友達の命を守ることにつながるという指導を全校朝会や日々の学級指導で繰り返し指導してきたことが数字に表れた。引き続き、生活指導に関する取り組みを継続し、規範意識をさらに高めていく必要がある。また、きまりがなぜあるのか、どうして守らなければならないのかといった指導を継続していく。

○ 令和4年度は研究教科を算数とし、研究主題「わかる喜び 学ぶ楽しさ」として、授業研究を推進した。その結果、学力経年調査の標準化得点は令和3年度、算数102.7であったが令和4年度は算数102.4であった。102を維持したというのは大きな成果であると考ええる。各教員の日々の授業改善と児童理解による良好な人間関係の構築。加えて、脳トレで児童の学びに向かう姿勢作りに取り組んだ事があげられる。

◎脳トレの推進

令和2年度、コロナ禍の影響の中で脳トレを開始。日々の百ます計算と漢字先取り学習をすることで児童の自尊感情を育むことをねらいとした。児童の脳を活性化し、学びに向かう姿勢を形成するために教職員一丸となって「脳トレ」を全学年で実践した。

令和4年度は「音読・計算・漢字」に取り組んだ。計算は3分間の百ます計算。どの計算も、昨日の自分の記録をクリアすることを目標としながら、小学校を卒業する間際までには、どの計算も2分を切ることを目標とした。たし算、ひき算、かけ算、わり算B(余り無し)、わり算A(余り有り)に取り組んだ。引き続き脳トレを推進し、児童の学びに向かう姿勢を形成していく。

【百ます計算で2分を切った児童の割合】

〔百ます計算 種類〕	年度始め	年度終わり
たし算	42% ⇒	58%
ひき算	47.7% ⇒	52.3%
かけ算	26.6% ⇒	73.4%
わり算B(余り無し)	23.4% ⇒	76.6%
わり算A(余り有り)	0% ⇒	16.7%

【漢字検定試験の合格率】

○3年以上の児童が当該学年に相当する漢字検定試験を受験した。

令和4年度の合格率は86.2%であった。前年度の合格率78.2%と比べると8ポイント向上した。

※百ます計算や漢字先取り学習、音読に取り組む脳トレの活動は児童のやればできるという自己肯定感を高めるものになっている。令和4年度は朝の時間帯に位置付けて推進してきた。

○学力向上推進事業

昨年度に続いて学力推進事業をうけ、月2回程度教育アドバイザーを派遣していただいた。アドバイザーには、次の3点指導していただいた。

- ① 若手教員の算数授業の参観並びに指導講話
- ② 校内算数全体授業での指導講評
- ③ メンター研修での指導助言

指導教諭の指導を通して、本校の算数科の授業スタイルが確立することができた。

○「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている」児童は88%であった。前年度の82%よりも6ポイント増加している。日々のいろいろな学習で話し合う活動を取り入れた事が増加した理由であろうと考える。引き続き、あらゆる学習の中で話し合いなどの言語活動を意識して取り入れていきたい。

○「一輪車や遊具を使って体を動かすことは楽しいですか」という設問に対して71%がとても楽しい、25%が楽しいと回答した。コロナ禍の中でも児童が運動に興味を持ち楽しいと感じる肯定的な回答が96%になったことは前向きに評価できると考える。今後も児童の興味関心を高めながら運動することの楽しさや喜びを体験させていきたい。

○児童の学習端末は、毎朝、起動し、心の天気を入力して一日が始まるということを基本ルーティーンとして全児童がPC操作を簡単に感じるようにさせていく。そして、日々の学習でも活用を図っていく。「学校でパソコンやタブレットを使っていますか」の問いに72%の児童が「ほぼ毎日使っている」と回答をしている。今後はさらに効果的な場面で活用を推進したい。

○2020年の学習指導要領の改訂後、コロナ禍もあり、教員の負担感は増す一方である。その中で、行事精選や活動の見直しを行い教員の教育環境が過度にならないようにしているところである。これまでも、ゆとりの日を設定していたが、今年度は週1回のゆとりの日を設定した。今後も確実な運用を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において不登校児童の在籍が 0 となるようにする。
- ・ 「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の標準偏差値を 102 以上を維持する。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 「日々の授業の中で学習者用端末を利用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 95%以上にする。
- ・ 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合（時間外勤務時間が 45 時間以内、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）を 60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

学校の年度目標

- ① 令和 6 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小学校)

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 75%以上にする。

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1人以上減少させる。
- ② 漢字検定(3年生以上)の合格率を80パーセント以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小学校)

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（時間外勤務時間が月45時間以内、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教職員の割合を50%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和6年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童理解を深め、いじめの未然防止と早期発見、早期対応をすすめる。</p> <p>指標：</p> <p>いじめについて考える日、毎月の児童理解研修会を実施し、年度末の児童アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>きまりを守ることによって学校生活を楽しむことができたり、安全に活動をすすめることができたりするという場면을数多く経験させる。</p> <p>指標：</p> <p>今年度末の児童アンケートで「学校に行くのは楽しい」と回答する児童を85%以上にする。</p> <p>今年度末の児童アンケートで「学校の決まりを守っている」と回答する児童を95%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向のある児童の早期発見、早期対応をすすめる。</p> <p>指標：</p> <p>児童理解研修会、スクリーニングシート、心の天気の利用を通して、新たに不登校</p>	B

<p>になる児童の割合を前年度より改善させる。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 たてわり班活動を通して、児童の自己肯定感を高める。</p>	
<p>指標： たてわり遊び、たてわり清掃、オリエンテーリングを通して、年度末の児童アンケートで「自分には良いところがあると思う」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を８５％以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①について】 「児童理解研修会」を行い、各学級の気になる児童について報告、全教職員で共通理解し、日々情報交換も行っている。 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というアンケートでは、最も肯定的な意見９１％、全体の肯定的な意見は９８％になっている。</p> <p>【取組内容②について】 きまりを守ることによって学校生活を楽しむこと、安全に活動をすすめることができるように学校全体、学級で「きまりを守る」ことについて指導している。 「学校に行くのは楽しい」と肯定的な意見が９１％になっている。 「生活見直し週間」、代表委員会による「学校をよりよくしていこう」をテーマに様々な取り組みを設けて、意識付けを行っているが、「学校のきまりを守っている」のアンケートでは肯定的な意見が８８％にとどまっている。</p> <p>【取組内容③について】 児童理解研修会などで情報共有を行い、不登校傾向にある児童の状況を教職員で把握している。子どもサポートネットと連携を取りながら学校に登校できるように支援するとともに家庭とも連絡を取り、改善できるように取り組んでいる。昨年度から引き続いて不登校傾向のある児童は変わらない。１年生で１人新たに不登校傾向のある児童がいる。</p> <p>【取組内容④について】 集会や休み時間など下級生や友だちにやさしく接することができていた。高学年の児童を中心にたてわり遊び、たてわり清掃などに取り組んでいるので、少しずつではあるが自己肯定感を高められていると思う。６年生だけでなく、５年生もリーダーの自覚が少しずつでてきている。「自分には良いところがあると思う」の項目で、微増ではあるが肯定的な意見が８６％になっている。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1人以上減少させる。 ② 漢字検定(3年生以上)の合格率を80パーセント以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>すべての教科・領域において話し合い活動を深めるため、自分の思いや考えを書いたり、交流したりする学習を取り入れる。</p> <p>指標：</p> <p>今年度の児童アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、令和5年度（39%）より増加させる。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年での研究授業・公開授業、脳トレを通して、計算力や漢字能力などの基礎学力と書く力を高める指導法のあり方を模索する。</p> <p>指標：</p> <p>今年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率6割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p>	

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 C-NET、日本語指導サポーターと連携した授業を進めるとともに、デジタル教科書の活用を図る。	B
指標： 今年度末の児童アンケートで「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 「国語の授業の内容はわかりますか」に対して肯定的な回答をする日本語の指導が必要な児童の割合を70%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 本校の特色である一人一台の一輪車をさらに活用するために「一輪車月間」を設け、体を動かすことの楽しさを経験させる。また、宿泊学習で多様な体験を通して健やかな心と体を育成する。	
指標： 今年度末の児童アンケートで「一輪車や遊具を使って体を動かすことが楽しかった」と回答する児童を90%以上にする。	C
取組内容⑤【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 漢字の定着を図るために漢字の先取り学習に取り組む。	
指標： 漢字検定(3年生以上)合格者を80パーセント以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①について】 国語科の学習を中心に自分の考えを書く活動、それをペアやグループ、全体の場で発表する活動を取り入れてきた。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、59%と、昨年度の39%を大きく上回った。高学年は52%、中学年は48%、低学年は79%、と例年と比べ、「最も」に回答する割合が大幅に増加した。伝え合いカードなどの支援ツールの作成、普段から対話を意識した学習展開を学校全体で取り組んだ成果だと考える。また、どのように伝え合いをするのかのゴールが明確にあることも要因だと考えられる。このまま継続していきたい。	
【取組内容③について】 「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は80%と、目標の水準に達することができている。高学年64%、中学年86%、低学年91%と学年が上がるにつれて苦手意識が出てきている。今後もデジタル教科書を毎時間活用し、C-NET、日本語指導サポーターと連携した授業を進めていく。	
【取組内容④について】 取組内容④について、「一輪車や遊具を使って体を動かすことは楽しかった」と回答する児童が82%だった。低中学年に一輪車や遊具を使って体を動かしている児童が多い。高学年が一輪車や遊具を使って体を動かせるような取り組みとして、運動委員会で「わくわく遊びカード」を2学期に実施予定。また、「一輪車月間」を3学期に実施予定。	
次年度への改善点	

大阪市立難波元町小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（時間外勤務時間が月45時間以内、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教職員の割合を50%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】 心の天気を毎日入力できるよう時間の確保をしたり、学習者用端末を日々の授業で利用したりする。		A
指標： 令和6年度末の児童アンケートの「学校でタブレットを使っていますか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の過重労働を抑制するために、ゆとりの日を週1回設ける。		B
指標： 業務内容の改善、見直しを進めたり、ゆとりの日には勤務時間終了後速やかに退勤したりする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容①について】 指標の項目については、99.8%で達成することができている。ただし、最重要目標である「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数」においては、8日であった。原因として、1年生の端末が準備できなかったことや、欠席児童やパソコンを忘れた児童も母数に入るため達成する難しさが挙げられる。それは、児童用パソコンの引継ぎがうまく行われなかったことや、様々な事情で欠席児童がいたり、パソコンを活用した取り組みを進めていく中で、家庭学習でも活用を促すと、どうしても忘れるといったことが起きる可能性があったりするからである。		
【取組内容②について】 勤務時間終了後すぐ、とはいかないが、「ゆとりの日」には遅くまで残り業務を進める教職員の姿は減少している。		
次年度への改善点		

